

第7章 文化資源の保存・活用に関する措置

1 措置の考え方と重点的な措置について

文化資源の保存と活用に関する将来像の実現に向けて、それぞれの課題及び方針に対応した個別の措置を講じます。措置は、市費、県費、国費（文化財補助金、地方創生推進交付金等）、その他、民間等の資金も活用しながら取組を進めます。また、計画期間内に取り組む措置のうち、緊急性を要するもの、観光や地域振興など他分野と関連し取り組みの相乗効果等が期待できるもの、保存・活用を今後推進していくための基礎となる仕組みづくりなどについて、重点的に取り組む措置(重点措置)と位置付けます。

2 措置の概要について

(1) 調査・把握に係る措置

備前市では、令和12(2030)年までの間に、文化財をはじめとする多くの文化資源の調査を行い、その活かし方やさらなる魅力の発見につながるよう、特に以下について、総合的な調査およびテーマに基づく調査を行っていきます。

【表7-1】調査・把握に係る措置一覧表

番号	既存 /新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重点 措置	予定する財 源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
1	新規	歴史的建造物の総合的調査	歴史的建造物について、文化資源の新規指定・登録や解除候補の把握のための総合的調査を行います。	—	—	◎	◎	●	●	●		市
2	既存 継続	仏画・肖像画の調査	市内27寺院のうち、終了していない残り約3分の2の仏画・肖像画の悉皆的調査は外部専門家を招聘し実施します。	—	—	◎	◎	●	●			市
3	新規	古文書の調査	日本遺産の構成資産の一つである「延原文書」などの市内に現存する古文書の所在調査及び内容確認を行います。	—	—	◎	◎	●	●		■	国文 市
4	既存 継続	井田跡の総合的調査	日本遺産の構成資産でもある「井田跡」に関して、発掘調査、石垣の測量等を行い、その価値を明らかにしていきます。	—	△ 備前	◎	◎	●	●		■	国文 県 市

5	既存 継続	熊山山塊の戒壇群の調査	史跡伊部南大窯跡整備基本構想に基づき、中世備前焼調査事業としてさらなる価値の明確化に向けた調査の実施を検討します。	—	—	◎	◎	●					国文 市
6	新規	未調査・調査途中の案件への取り組み	岡山藩主池田家墓所など備前市内にある史跡のさらなる価値の明確化に向けた調査の実施	—	—	◎	◎	●	●	●			市
7	新規	植生の最新状況の把握調査	植物相の最新状況を把握するため、補足調査を専門家へ委託し、平成25(2013)年に作成した「備前市植物目録」を最新情報に更新します。	—	—	◎	◎	●					市
8	新規	景勝地・天然記念物等の把握調査	景勝地・動物・植物・地質鉱物等について、文化財新規指定・登録や解除候補を把握するための調査を行います。	—	—	◎	◎	●	●				市
9	新規	歴史ある町並みの調査	歴史ある町並みの景観を保持するため、その景観の構成要素の調査を行います。	○	◎ 備ボ	○	◎	●	●				国文 市
10	既存 継続	備前焼陶工・窯元の調査	備前焼について、特に把握のできていない近代以降の備前焼陶工・窯元や、現代作家の活動状況について調査を行います。関連して「備前焼の製作道具」の再評価も行います。	—	△ 備民	◎	◎	●					市
11	既存 継続	備前焼宮獅子の調査	全国の神社等に点在する、年号や陶工名が入っていない備前焼宮獅子について実態把握のための調査を行います。	—	△ 備民	◎	◎	●					国文
12	新規	伝統技術の実態把握調査	竹筆、ろう石加工技術など、備前市には備前焼以外にも多くの伝統技術が残されています。このような未指定の伝統技術について、実態把握の調査をします。	—	△ 備民	◎	◎	●					市 民
13	既存 継続	民俗の総合調査	祭りや年中行事などの民俗文化を中心とした調査を実施します。	—	○ 備民	◎	◎	●	●		■		国文 市

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

(2) 保存に係る措置

文化資源の保存はみんなで未来に向かって営々で行うもので、私たちの世代の責務です。日常の管理を普段から行い、モニタリング制度などを利用して地域の人々も見守れるようにします。また防災訓練などを通し、地域の文化財をみんなで守る意識を高め、地域で守る文化資源という防犯意識も育つように配慮していきます。特に国史跡丸山古墳に関しては、保存に向けた計画等がないので、保存活用計画、保存整備基本計画等の策定を検討していきます。以下の表にその内容をまとめています。

【表 7-2】保存に係る措置一覧表

番号	既存/ 新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重 点措置	予定す る財源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
14	既存 継続	文化資源の 保存・管理	岡山県文化財保護指導委員や管理者などが行う文化財パトロールによる日常点検等で異常があった場合、異常箇所の確認を行い、管理者等へ指導助言をします。	△	◎ 備ボ	○	○	●	●	●		国・県
15	新規	丸山古墳に 関する整備	国指定史跡丸山古墳について、将来的な保存のために整備構想の計画策定を検討します。	—	—	◎	◎			●		国文
16	既存 継続	補助・助成 制度の周知	修理などによって発生する経費が多額になる場合は、補助制度等があることを周知します。また、維持管理にとどまらず、文化資源を活かせるような国や県などの補助金の活用はもちろんのこと、民間における助成制度を把握し、その情報発信を行います。	△	◎ 備ボ	○	○	●	●	●		市
17	既存 継続	文化資源の 防災意識の 啓発	万が一の火災に備えた防災訓練等の実施と、盗難等の防犯に対応するための施策を検討します。国特別史跡旧閑谷学校、国指定重文大滝山三重塔、国指定重文真光寺三重塔・本堂で継続して防災訓練を実施していきます。	△	◎ 備ボ	△	◎	●	●	●		市
18	新規	モニタリン グ制度の実 施	文化財パトロールなどを活用しながら数多くある文化資源を地域住民が見守れるようにします。	◎	△ 備ボ	—	○			●	●	市

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

(3) 活用に係る措置

文化資源は、対象となる領域は幅広く、また活用するための手法・手段も様々です。そのため、それらを有機的に関連づけて行い、備前市の歴史文化の特徴が顕在化するように措置を行う必要があります。

文化資源を適切に保存管理して活用する拠点となる施設の整備を、既存施設の機能の再編も考慮しながらすすめていきます。拠点形成には空き家などの有効活用も検討します。次に国指定史跡備前陶器窯跡の整備を行い、国指定史跡丸山古墳の活用方法も検討していきます。これらを含めて閑谷学校、備前焼、日生の海産物を周遊するルートを設定し、来訪者の滞在時間が長くなるようルートを整備していきます。周遊ルート上は案内表示板などユニバーサルデザインに基づく総合的なガイダンスに配慮していきます。日本遺産の構成資産のひとつである「延原家文書」も翻刻して活用方法を検討するなど文化資源の効果的な情報発信を考えていきます。以下の表にその内容をまとめています。

【表 7-3】活用に係る措置一覧表

番号	既存/新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重点措置	予定する財源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
19	既存 継続	文化施設の再編成	令和 2(2020)年度に策定された施設再編計画に合わせて、適切に文化資源を調査、保存、管理、活用できる総合的な文化施設の再編成を検討します。	△	△ 備郷	△	◎	●	●	●	■	国 市
20	新規	拠点となる施設の整備	再編に基づき、文化資源を保存・活用するため備前焼ミュージアムを中心として拠点施設を整備します。	△	△ 備郷	△	◎		●	●	■	国 市
21	新規	古文書の調査結果の活用	日本遺産の構成資産の一つである「延原家文書」などの市内に現存する古文書の所在調査及び内容確認を行い、その翻刻と公開・活用の方法について検討していきます。	—	—	◎	◎		●	●	■	市
22	既存 拡充	備前陶器窯跡の整備	史跡備前陶器窯跡整備基本計画(令和 4(2022)年度作成予定)に基づき、今後 10 年間、計画期間に基づき、史跡整備を進めていきます。	—	—	◎	◎	●	●	●	■	国文 市

23	既存 継続	丸山古墳に関する活用	国指定史跡丸山古墳について、文化施設での展示やイベントを通じて、認知度の向上をはかりながら、丸山古墳の魅力を活かすための手法を検討していきます。	—	—	◎	◎	●	●			国文 市
24	新規	周遊ルート等の設定	備前市内に多くの観光客が訪れ、滞在時間が長くなるよう閑谷学校、備前焼、日生の海産物が周遊できるように、その魅力に触れ学ぶことができる周遊ルートを設定します。	△	△ 備考	△	◎	●	●	●	■	国地 市
25	新規	周遊ルート等の整備	周遊ルートのパンフレットを作るなど、市内文化資源を活用した観光基盤の整備を進めていきます。	△	◎ 備考	△	◎	●	●		■	国地 市
26	新規	空き家等活用	備前市空き家等実態調査の結果をもとに空き家等（文化的価値がある建物や文化的景観の地域指定等）を活用した支援事業の実施を検討します。	○	◎ 備考	○	◎	●	●			国地 市
27	新規	ストーリーの拠点形成	関連文化財群のストーリーをもとに、国指定史跡備前陶器窯跡などその拠点となる構成資産の整備方法を検討します。	○	◎ 備考	○	◎			●		国地 市
28	既存 継続	文化資源を活かした取り組み	備前市の文化資源をテーマにした食品・生活雑貨の商品化、および周遊ツアーのパッケージ化の検討をした際に、その企画に対する支援方法を検討します。	○	◎ 備考	○	○	●	●	●		国地 市
29	既存 拡充	文化資源の情報発信	文化資源の情報発信をおこないます。SNS等で若年層にも地域の文化に触れ、親しんでもらえるような遺跡発掘現場の体験イベントや動画配信を行います。備前歴史フォーラムなどその機会を活用します。	—	○ 備考	△	◎	●	●	●		国地 市
30	既存 継続	文化資源の情報発信手法の検討	文化資源の情報発信を行うため、SNS等で若年層にも地域の情報が届くよう配信アプリ等の開発など、情報発信の手法を検討します。	—	○ 備考	△	◎	●	●	●		国地 市
31	既存 拡充	案内表示板等の整備	備前市を訪れた人が気軽に周遊できるよう、文化施設や史跡等への案内表示の充実を図ります。	—	○ 備考	△	◎	●	●	●		国地 市

32	新規	ユニバーサルデザインに基づくガイドランス方法の検討	備前市を訪れた人が気軽に周遊できるようユニバーサルデザインに配慮した総合的なガイドランス方法を検討し実施します。	—	○ 備ボ	△	◎	●	●	●		国地 市
----	----	---------------------------	--	---	---------	---	---	---	---	---	--	---------

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

(4) ひとつづくり・しくみに係る措置

文化資源を未来につなげていくのはそこに住む人々です。その流れが継続するよう文化資源の魅力が伝わるよう備前歴史フォーラムの開催、講座・講演会の実施、文化資源をテーマにしたワークショップを計画していきます。地域の文化資源に魅力を感じ、守るために郷土学習や熊沢蕃山など備前市ゆかりの人物の顕彰も計画していきます。さらには地域の紐帯ともいえる祭りが廃れないように民俗文化財継承の取り組みに支援していきます。一方で行政においても埋蔵文化財担当職員、文化財専門職員の適正な配置を行い関連部局との連携もとりながら文化資源の保存・活用を図っていきます。以下の表にその内容をまとめています。

【表 7-4】ひとつづくり・しくみに係る措置一覧表

番号	既存/ 新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重点措置	予定する財源
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
33	既存 継続	備前歴史フォーラムの開催	講座やフォーラムを通して備前地域の歴史を中心に様々な分野の面から毎年テーマを設けて情報発信を行い、魅力を発信していきます。	○	◎ 備フ	○	◎	●	●	●		市
34	新規	地域住民によるモニタリング制度の実施	文化財パトロールだけでなく数多くある文化資源を地域住民が見守れるような体制の構築を検討します。	◎	△ 備ホ	—	○		●	●		市
35	既存 継続	市内文化施設における講座・講演の開催	市内文化施設で開催する企画展等に合わせて、地域住民が文化資源の魅力を理解できるような講演・講座を実施します。	—	—	○	◎	●	●	●		国文 市
36	既存 継続	市内文化施設におけるワークショップの開催	市内文化施設等で地域住民が文化資源の魅力を理解できるよう、周知されていない地元ゆかりの人物を知るためのワークショップの充実を図ります。	—	—	○	◎	●	●	●		国文 市
37	新規	学校教育における郷土学習	既に作成している「論語かるた」や「閑谷学校の紙しばい」などを活用して、児童・生徒が地域の文化資源に魅力を感じ、地域に対する愛着や誇り、文化資源の継承に繋がるような取り組みを進めていきます。	○	△ 備ホ	△	◎	●	●	●	■	市
38	既存	学校教育における	小中学生だけでなく、教員や保護者にも理解し易い媒体を作成し、それを活用した出前授業等工夫した学校	○		△	◎	●	●	●	■	市

	継続	る郷土学習の手 法の検討	教育・生涯学習の実施を行います。		△ 備郷										
39	既存 拡充	備前市ゆかりの 人物の顕彰	柴田鍊三郎、藤原審彌、正宗白鳥、正宗敦夫などの文学者や津田永志や山田方谷など、郷土にゆかりのある人物について、市内文化施設において、折に触れて地域に深くかかわった人物の周知を実施していきます。	△	○ 備郷	△	◎	●	●	●	■				市
40	既存 継続	熊澤蕃山の顕彰	閑谷学校を創設した池田光政に影響を与え、市内に隠居した熊澤蕃山の顕彰事業に加え、それに関連する生涯学習施設等の整備を検討して行きます。	△	○ 備郷	△	◎	●	●	●	■				市
41	新規	活動団体の取り 組み支援	各地域に所在する文化資源の維持管理等の取り組み団体への支援を検討します。	△	○ 備ボ	△	◎	●	●	●					国地 市
42	既存 継続	民俗文化財継承 の取り組み支援	各地域の祭りや行事の継承に尽力する団体への支援を検討します。	△	○ 備民	△	◎	●	●	●					国地 市
43	新規	埋蔵文化財に係 る体制の整備	埋蔵文化財の業務に適切に対応するため埋蔵文化財専門職員を確保・配置して、埋蔵文化財行政の体制の強化に努め、文化資源に関する情報発信や活用に取り組みます。	△	△ 備ボ	△	◎	●	●	●					市
44	新規	文化資源活用に 係る体制の整備	市民からの相談や様々な問い合わせに適切に対応するため専門的知識を有する文化財専門職員を確保・配置して、文化財行政の体制の強化に努め、文化資源を活用していきます。	△	△ 備ボ	△	◎	●	●	●					市
45	既存 継続	庁内連携体制の 強化	専門職員は自分の専門領域だけでなく、庁内の関連部局・NPO・任意団体と連携しながら、文化資源の活用をはかっていきます。	△	△ 備ボ	△	◎	●	●	●					市
46	新規	専門職員の人材 育成	文化資源の活用を図っていくために、各分野の専門職員を配置したうえで、専門職員の専門領域での資質の向上や関連する業務で適切に連携がとれる人材を育成していきます。	△	△ 備ボ	△	◎	●	●	●					市

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり

*団体略称 備ボ：備前市観光ボランティアガイド協会 備郷：備前郷土史研究会 備民：備前民俗調査委員会

備フ：備前歴史フォーラム実行委員会

*財源略称 市：備前市費 県：岡山県費 国文：国文化財補助金 国地：国地方創生交付金 民：民間・その他

3 関連文化財群の保存活用に関する措置

本項では、関連文化財群ごとの措置を下記の表にまとめました。なお、措置の考え方と重点的な措置については、第5章と同様とします。

【表 7-5】 関連文化財群に係る措置一覧表

関連文化財群	既存/ 新規	事業名	措置概要	取組主体				実施計画期間			今期重 点措置	
				市民	団体	専門家	行政	R3-5	R6-9	R10-12		
①学びの原郷 関谷学校と岡 山藩主池田家 の遺産	37	新規 学校教育におけ る郷土学習 (再掲)	関谷学校の普遍的価値の調査研究を行い、関谷学校の価値をより広く伝えるために「コミュニティ」「人材育成」などをテーマにした活用方法の検討を進めます。	△	○	○	◎	●	●	●	■	
	40	既存 継続	熊沢蕃山の顕彰 (再掲)	熊沢蕃山の教えを SDGs と関連つけた顕彰事業の実施をします。	○	○	△	◎	●	●		
	4	既存 継続	井田跡の総合調査 (再掲)	井田跡の総合的な調査を実施します。	○	○	○	◎	●	●	■	
②備前焼を生 み、栄えるま ち	22	既存 拡充	史跡備前陶器跡 の整備 (再掲)	史跡備前陶器窯跡の整備を実施します。	○	○	○	◎	●	●	●	■
	② -1	新規	中世備前焼総合 調査	令和3年度までに行った調査をもとに窯跡の保存・活用方法を検討します。			○	◎	●			
	10	既存 継続	備前焼の陶工・窯 元の調査 (再掲)	近代以降の備前焼陶工・窯元の調査を行います。		△	○	◎		●		
	10	既存 継続	備前焼の陶工・窯 元の調査 (再掲)	現代作家の活動状況の把握を行います。		△	△	◎	●	●	●	
	11	既存 継続	備前焼宮獅子の 調査 (再掲)	全国の神社等に点在する年号や陶工名が入っていない備前焼獅子について実態把握のための調査を行います。		△	◎	◎		●		
	12	新規	伝統技術の実態 把握調査 (再掲)	竹筆、ろう石加工技術など、備前市には備前焼以外にも多くの伝統技術が残されています。このような未指定の伝統技術について、実態把握の調査をします。		△	◎	◎			●	
33	既存 継続	備前歴史フォー ラムの開催 (再掲)	備前歴史フォーラムのなかで備前焼に関する情報発信を行います。	○	△	○	◎	●	●	●		

③近代漁業発祥のまちと食文化	③ -1	新規	食文化に関する情報発信	日生地区の歴史や産業を中心に加子浦歴史文化館において情報発信を行っています。これに関連付けて食文化をテーマとした様々な企画を実施していきます	○	◎	△	◎	●	●	●	
	28	既存 継続	文化資源を生かした取組（再掲）	日生地区の歴史や産業をテーマに商品開発等企画を実施・検討していきます。	○	◎	○	◎		●	●	
④中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観	④ -1	新規	八塔寺ふるさと村の総合調査	八塔寺山の南斜面にかやぶきの農家が点在し、農村景観が広がるふるさと村周辺の総合的な調査等を実施し、その魅力を発信していきます。	△	○	◎	◎		●	●	
⑤耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち	⑤ -1	新規	三石地区近代化遺産の総合調査	近代化遺産の保存方法や三石小学校講堂などの文化資源の拠点となる構成資産の整備方法を検討します。	○	◎	◎	◎		●	●	
⑥映画と文学、「心像風景」の残るふるさと	39	既存 拡充	備前市ゆかりの人物の顕彰（再掲）	備前市ゆかりの文学者の顕彰をするため企画展や講演会を開催します。		○	◎	◎	●	●	●	
	25	新規	周遊ルート等の整備（再掲）	映画でロケ地となった場所を活用したツアーの実施、周遊ルートの作成及び発信を検討します。	△	◎		◎		●	●	
⑦交通と流通の要となった地	⑦ -1	新規	「交通と流通」に関する調査研究・情報発信	「交通と流通」をテーマとした調査研究及び情報発信を行います。	△	◎	○	◎	●	●	●	
	13	既存 継続	民俗の総合調査（再掲）	総合的な民俗文化財調査等を通して、地域の成り立ちや備前市の歴史文化の特徴をあきらかにしていきます。	○	○	◎	◎	●	●	●	
	⑦ -2	新規	空き家等活用	備前市空き家等実態調査の結果をもとに文化的価値がある建物や文化的景観の地域指定を活用した支援事業の実施を検討します。	○	◎	○	◎		●	●	

※取組主体：◎中心となって取り組む ○協力して取り組む △一部取り組みに協力の場合あり